

熊本高専だより

革新する技術、創造する未来～夢へ翔る熊本高専～

2013 Winter

NO.13

特集

Special Topic

「高専大会&ロボコン・プロコン」

- ・第50回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会
- ・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013九州沖縄地区大会
- ・第24回全国高等専門学校プログラミングコンテスト



CONTENTS

01	巻頭のことば 今年度上半期を振り返って	10	研修旅行& インターンシップ	20	後援会より
02	小特集 新たな高専教育への取り組み	14	学生会から 電波祭・高専祭	22	News & Topics
03	特集 高専大会&ロボコン・プロコン	16	委員会より センター等行事より		
		18			

今年度上半期を振り返つて

熊本キャンパス 副校長 下塩 義文



この半年を振り返つて、熊本キャンパスでの主な活動について月を追つてご紹介したいと思います。

4月はなんといっても、新入生の入学です。毎年のことながら、すっかり大人になつて巣立つて行つた卒業生を送つた後に受け入れた新入生はまだまだ可愛らしく感じられます。5年後には立派な技術者になつてくれることを期待しています。新入生は入学式の後しばらくして、2泊3日の合宿研修に行き、新しいクラスでの仲間作りを行いました。また、今年は、長谷川校長が新しくお見えになりました。長谷川校長は大学で最先端のロボットの研究・学生の指導をされて来ており、高専でも研究・教育の両面で我々教員をリードして行つていただけるものと思います。5月には、毎年恒例の「おもしろサイエンスわくわく実験講座」を実施しました（写真1）。今年は千人を超える来場者があり、地域での科学教育のお役に立てたのではないかと思います。この実験講座

には、多くの学生が実験担当者として参加しており、子供たちと楽しそうに会話をしながら実験の説明をしている姿を見ると、学生自身の教育にも役立つていると思います。3年生は今年初めての試みとして、佐世保のハウステンボスを会場にした英語研修を行いました（写真2）。一泊二日で工場見学と組み合わせ、3年生になつて混合学級から専門の学科に分かれるため、仲間つくりと、専門学科の教員との交流を深めることも目的として実施しました。6月は多くの学生が高校総体に参加しました。7月に入ると、九州沖縄地区大会で成績の良かつたチーム・選手は8月の全国高専体育大会に出場しました。NHK高校放送コンテストも7月にあり、毎年作品を出します。9月末には、4日間にわたつて特別講義を実施しました。1年生はクラスマッチや、工場見学（東京エレクトロン）など、2年生は菊池恵楓園訪問、工場見学（新幹線基地）など、3年生は異文化・国際理解で、東南アジア各国事情、海外旅行の基礎知識、世界の宗教など、4年生は各クラスを二つに分けて、シンガポールからお呼びした先生による技術英語、5年生は弁理士の方にお願いして特許に関する講義を実施し、実社会での活動に関心を持つて

には、多くの学生が実験担当者として参加しており、子供たちと楽ししそうに会話をしながら実験の説明をしている姿を見ると、学生自身の教育にも役立つていると思います。3年生は今年初めての試みとして、佐世保のハウステンボスを会場にした英語研修を行いました（写真2）。一泊二日で工場見学と組み合わせ、3年生になつて混合学級から専門の学科に分かれるため、仲間つくりと、専門学科の教員との交流を深めることも目的として実施しました。6月は多くの学生が高校総体に参加しました。7月に入ると、九州沖縄地区大会で成績の良かつたチーム・選手は8月の全国高専体育大会に出場しました。NHK高校放送コンテストも7月にあり、毎年作品を出します。9月末には、4日間にわたつて特別講義を実施しました。1年生はクラスマッチや、工場見学（東京エレクトロン）など、2年生は菊池恵楓園訪問、工場見学（新幹線基地）など、3年生は異文化・国際理解で、東南アジア各国事情、海外旅行の基礎知識、世界の宗教など、4年生は各クラスを二つに分けて、シンガポールからお呼びした先生による技術英語、5年生は弁理士の方にお願いして特許に関する講義を実施し、実社会での活動に関心を持つて



写真1 おもしろサイエンスわくわく実験講座



写真2 5月:国内での英語研修 写真3 10月:シンガポールでの研修



写真4 11月:ロボコン大会

もらいました。友達付き合いから、地域へ目を向け、そして世界へ、実社会へと学年を進むにつれて、だんだん視野を広げてもらえるよう取り組みと位置付けています。来年度も今年の反省を元に取り組んで行く予定です。9月末から10月にかけて、4年生はシンガポールへの研修旅行を行い、各クラスとも1～2週間の海外での英語研修、海外の同世代の学生との交流を実施しました（写真3）。10月は電波祭（文化祭）があり、晴天に恵まれ約1600人の入場者でした。11月にはロボコン九州大会があり、昨年の八代キャンパスに続き、熊本高専の連覇となりました。全国大会でも準決勝まで進出しました（写真4）。

このように、半年間でも様々な行事がありました。これらの中でも、今後重点的に取り組んで行きたいの事がありました。これらの中でも、専門はできるが英語ができるないと言えます。5月には、毎年恒例の「おもしろサイエンスわくわく実験講座」を実施しました（写真1）。今年は千人を超える来場者があり、地域での科学教育のお役に立てたのではないかと思います。この実験講座

は、国際化に向けた様々な活動です。小学校での英語教育、高校での英語の授業を英語で実施などの取り組みが始まっています。高専の卒業生は、専門はできるが英語ができるないと言われ続けてきました。現在、在学している学生の皆さんには、それが払しょくされるように、五年を終わって卒業するときには、外国の先生の英語での講義が理解出来るレベルになつて欲しいと思います。そのためには、教員側も最大限の取り組みを実施していく予定です。ぜひ、学生の皆さんにも真剣に、かつ積極的に取り組んでもらえればと思います。もちろん、英語はできるが専門はわからないでは困ります。日本ハムの大谷選手は野手と投手の二刀流に挑戦しています。ぜひ、専門も英語もできる高専生を目指してくれることを期待しています。

新たな高専教育への取り組み

新たな高専教育への取り組み

熊本キャンパス 教務主事 古江 研也



高専制度は発足して50年を経ました。この半世紀の間に高専が養成する技術者像にも変化が窺えます。発足当時の目的は「中堅技術者」の育成とされていましたが、技術革新や産業構造の高度化に伴い、「実践的創造的技術者」が求められるようになりました。そして、近年は新たな取り組みとして「優れたグローバルエンジニア」をいかに育てていくかが問われる時代となりました。工業製品、農産物のみならず文化・芸術面においてもグローバル化は避けられません。特に、鉱物資源に乏しく、エネルギーを自給できない日本は、海外との交流や物流によって経済的繁栄を維持してきました。工場の海外移転や外国との取引が加速度的に進む時代にあってエンジニアとしてその能力を發揮し、職場を確保するためにもグローバル化への対応を余儀なくされます。たとえ地場企業に就職し、工場が国内にあつたとしても諸外国から採用された人

の2年生については、9月に研修旅行を計画しています。

- ② 学生の自学自習を啓発するため、3年生までに英検2級以上またはTOEICテスト500点以上を取得している学生、4年生までに英検準1級以上またはTOEICテスト700点以上を取得している学生については、「特別学修による単位認定」制度を導入しました。単位を取得した場合は、次年度の英語の授業は履修する必要がありません。

- ③ 校内放送を利用して朝と昼休みに英会話放送(各15分)を学生に聞かせています。

- そのほか、従来から実施している校内英単語コンテスト(全学生対象)、TOEIC CIPテスト(4年生必修、他学年は希望者対象)、実用英検受験(2年生は準2級、3年生は2級受験必修)についても、希望者のみの受験から全員受験へと切り替えています。また、教員についても高専機構主催の研修や海外研修による専門の授業ができるようになります。具体的に取り組んでいっています。具体的に取り組んでいる主な内容は、次の通りです。

- ①既に実施している4年次の海外研修旅行に加え、3年次研修についても英語体験研修を組み込んだ1泊研修としました。また、2年生対象に台湾研修への参加を募集し、26年3月に実施します。台湾研修は、募集定員を超えて欲ほしいという思い

からです。主なプログラムを列挙すると、次のようにになります。

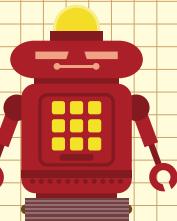
- 5年生..弁理士を講師に知的財産に関する講演会。

- 4年生..C I科は海外研修日程内で技術英語研修を実施。TE科、H I科は全員対象に技術英語の講義。

- 3年生..国際・異文化理解をテーマに国内外から講師を招聘し、主に東南アジア(韓国・中国・ベトナム・タイ・インド)の国際事情についての講義。

- 2年生..人権教育(ハンセン病についての事前研修と恵楓園見学)と技術研修(新幹線車両基地見学)のほか、自己理解講座、卒業生による講演。最終日には学習発表会。
- 1年生..企業のトップを招いての講演、工場見学とHR(面談を含む)。
- 特別時間割については、企画の段階から多くの先生方の協力で実施されました。また、学生の受講態度については学外の講師からよい評価を頂きました。「優れたグローバルエンジニア」の育成への取り組みは、まだ緒に就いたばかりです。保護者の皆様にも経費負担でお願いすることが増えますが、是非ご協力、ご支援下さい。





特集

「高専大会&ロボコン・プロコン」

ロボコン九州沖縄地区大会を終えて

ロボコン競技委員長 四宮 一郎

熊本キャンパスAチーム指導教員 高倉 健一郎
(情報通信工レクトロニクス工学科)



今年度の高専ロボコン九州沖縄地区大会は、全国の地区大会の中で最も早く開催された大会でした。NHKロボコン事務局からも、最初の地区大会が成功すれば他の地区大会も成功すると言われ、プレッシャーを感じながらの大会となりました。今回私は競技委員長としてロボコン大会に携わりましたが、今年度は九州沖縄地区高専体育大会の主管校でもあつたため、体育大会とロボコンの準備を同時に進めなければならず、学生係の皆さんには大変ご苦労をおかけしました。また、私自身学生主事として初めて年度内に二つの大きなイベントを担当することができます。大会を無事終えることができるのかと大変心配していましたが、大きな問題もなく終了することができ、自身大変良い経験をさせてもらつたと思っています。これも偏り、学生係をはじめ、教職員の皆様のお力添えがあつてこそ成功できたものと深く感謝しております。さらに、

補助学生として多くの学生にも協力ををしてもらいました。今回の大会では、補助学生をどのように集めるかが大きな課題の一つとなっていましたが、担任の先生方の協力により、当初予定していた百五十名を上回る学生が協力に応じてくれました。中には、体育大会の補助学生を務めてくれた学生もあり、日頃より学生会が進めているボランティア活動に対する精神が少しずつ浸透してきたのではないかと感じています。補助学生においては、早朝から準備や運営、片づけに至るまで、一生懸命に大会をサポートしてくれ、本当に感謝しています。NHKロボコン事務局やNHKスタッフからも高い評価をいただきました。



今後も、高専体育大会をはじめ、様々なイベントが行われることになります。すでに来年度は、全国デザコンが本キャンパスを担当校としてNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

毎年、高いレベルのロボットが集まるロボコン九州沖縄地区大会で、熊本高専の2連覇という栄冠を勝ち取ることができました。強豪校の北九州高専、大分高専を下し、決勝戦では有明高専を大差で破り優勝した熊本キャンパスAチームのロボットは例年よりも仕上がりが早く、八代、熊本両キャンパスのチームが参加し、9月3日に開催した合同ロボコン大会では、1か月後に控えた大会当日と変わらないパフォーマンスを披露するなど、ロボットの性能をアピールしていました。

しかし、2013年4月のルール発表から地区大会までの約5ヶ月、アイデア出しから製作までに与えられた期間は決して十分とは言えません。また、無線操作、歩行、自走、



補助学生として多くの学生にも協力ををしてもらいました。今回の大会では、補助学生をどのように集めるかが大きな課題の一つとなっていましたが、担任の先生方の協力により、当初予定していた百五十名を上回る学生が協力に応じてくれました。中には、体育大会の補助学生を務めてくれた学生もあり、日頃より学生会が進めているボランティア活動に対する精神が少しずつ浸透してきたのではないかと感じています。補助学生においては、早朝から準備や運営、片づけに至るまで、一生懸命に大会をサポートしてくれ、本当に感謝しています。NHKロボコン事務局やNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

今後も、高専体育大会をはじめ、様々なイベントが行われることになります。すでに来年度は、全国デザコンが本キャンパスを担当校としてNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

毎年、高いレベルのロボットが集まるロボコン九州沖縄地区大会で、熊本高専の2連覇という栄冠を勝ち取ることができました。強豪校の北九州高専、大分高専を下し、決勝戦では有明高専を大差で破り優勝した熊本キャンパスAチームのロボットは例年よりも仕上がりが早く、八代、熊本両キャンパスのチームが参加し、9月3日に開催した合同ロボコン大会では、1か月後に控えた大会当日と変わらないパフォーマンスを披露するなど、ロボットの性能をアピールしていました。

しかし、2013年4月のルール発表から地区大会までの約5ヶ月、アイデア出しから製作までに与えられた期間は決して十分とは言えません。また、無線操作、歩行、自走、

補助学生として多くの学生にも協力ををしてもらいました。今回の大会では、補助学生をどのように集めるかが大きな課題の一つとなっていましたが、担任の先生方の協力により、当初予定していた百五十名を上回る学生が協力に応じてくれました。中には、体育大会の補助学生を務めてくれた学生もあり、日頃より学生会が進めているボランティア活動に対する精神が少しずつ浸透してきたのではないかと感じています。補助学生においては、早朝から準備や運営、片づけに至るまで、一生懸命に大会をサポートしてくれ、本当に感謝しています。NHKロボコン事務局やNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

今後も、高専体育大会をはじめ、様々なイベントが行われることになります。すでに来年度は、全国デザコンが本キャンパスを担当校としてNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

毎年、高いレベルのロボットが集まるロボコン九州沖縄地区大会で、熊本高専の2連覇という栄冠を勝ち取ることができました。強豪校の北九州高専、大分高専を下し、決勝戦では有明高専を大差で破り優勝した熊本キャンパスAチームのロボットは例年よりも仕上がりが早く、八代、熊本両キャンパスのチームが参加し、9月3日に開催した合同ロボコン大会では、1か月後に控えた大会当日と変わらないパフォーマンスを披露するなど、ロボットの性能をアピールしていました。

しかし、2013年4月のルール発表から地区大会までの約5ヶ月、アイデア出しから製作までに与えられた期間は決して十分とは言えません。また、無線操作、歩行、自走、

補助学生として多くの学生にも協力ををしてもらいました。今回の大会では、補助学生をどのように集めるかが大きな課題の一つとなっていましたが、担任の先生方の協力により、当初予定していた百五十名を上回る学生が協力に応じてくれました。中には、体育大会の補助学生を務めてくれた学生もあり、日頃より学生会が進めているボランティア活動に対する精神が少しずつ浸透してきたのではないかと感じています。補助学生においては、早朝から準備や運営、片づけに至るまで、一生懸命に大会をサポートしてくれ、本当に感謝しています。NHKロボコン事務局やNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

今後も、高専体育大会をはじめ、様々なイベントが行われることになります。すでに来年度は、全国デザコンが本キャンパスを担当校としてNHKスタッフからも高い評価をいただきました。

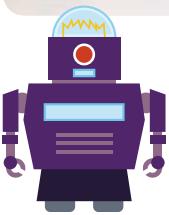
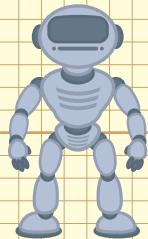
毎年、高いレベルのロボットが集まるロボコン九州沖縄地区大会で、熊本高専の2連覇という栄冠を勝ち取ることができました。強豪校の北九州高専、大分高専を下し、決勝戦では有明高専を大差で破り優勝した熊本キャンパスAチームのロボットは例年よりも仕上がりが早く、八代、熊本両キャンパスのチームが参加し、9月3日に開催した合同ロボコン大会では、1か月後に控えた大会当日と変わらないパフォーマンスを披露するなど、ロボットの性能をアピールしていました。

しかし、2013年4月のルール発表から地区大会までの約5ヶ月、アイデア出しから製作までに与えられた期間は決して十分とは言えません。また、無線操作、歩行、自走、

ロボコン九州沖縄地区大会「優勝」参戦記

特集

Special Topic 高専大会&ロボコン・プロコン



先輩からの喝によりシステムの改善、予定の変更、機能の切り捨てを行い、なんとか乗り切ることができたよう見えました。

大会ではマシンの外装及びパフォーマンスについて高評価をいただきましたが結果として二回戦敗退に終わりました。一回戦途中に発生したマシンの故障が原因でした。

二回戦敗退直後は負けて悔しいという感情でしたが、時間が経つにつれ、練習不足が原因だと思うと、違う悔しさがこみ上げてきました。

来年は3年生

になり、おそらく主要メンバーの一人になります。今年敗退してしまった事實を糧に、来年は勝利へ繋げる事ができるように精進したいと思います。

ロボコン参戦記

建築社会デザイン工学科2年 近田 一成

ロボコン地区大会を終えて

情報通信エレクトロニクス工学科4年 中丸 直也

高専ロボコン、選手から運営サポートへ

機械知能システム工学科4年 水永 悠介

自分が所属した八代キャンパスBチーム「チアリーペンギン」では、今年のテーマである「Shall We Jump?」を実現しようとしました。しかし、技術力と時間が足りません。それらの問題を補うべく休日や自分の時間を限界まで削り、努力をしました。しかし、シーズンが進むにつれチーム状況の認識不足、アイデアの実現可能性の問題が生じました。

先輩からの喝によりシステムの改善、予定の変更、機能の切り捨てを行い、なんとか乗り切ることができたよう見えました。

大会ではマシンの外装及びパフォーマンスについて高評価をいただきましたが結果として二回戦敗退に終わりました。一回戦途中に発生したマシンの故障が原因でした。

二回戦敗退直後は負けて悔しいという感情でしたが、時間が経つにつれ、練習不足が原因だと思うと、違う悔しさがこみ上げてきました。

来年は3年生

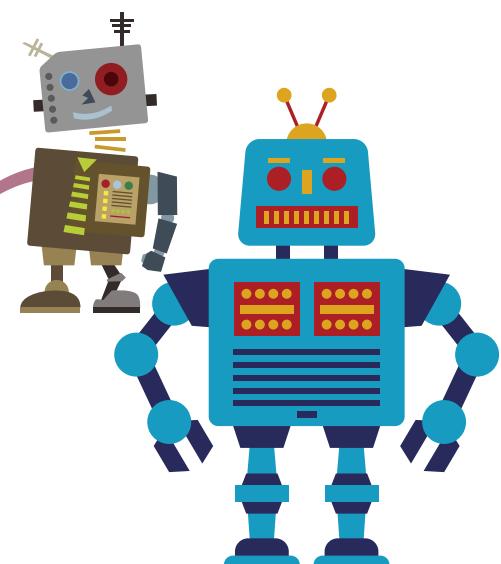
になり、おそらく主要メンバーの一人になります。今年敗退してしまった事實を糧に、来年は勝利へ繋げる事ができるように精進したいと思います。

私は10月6日に八代で行われたNHKロボコンの九州沖縄地区大会に熊本キャンパスAチームのリーダーとして参加しました。一回戦では私たちの想定以上に床が滑ってロボットが本来の力を發揮することが出来ませんでした。試合には勝ったものの、二回戦に備えて大急ぎで対策を行いました。対策がうまくいかとても不安でしたが、ロボットは無事にジャンプし二回戦も勝利を収めることができました。その後何度もトラブルに見舞われましたが、その度にピットのメンバーと協力しどうにか切り抜けっていました。そして並み居る強豪校を退けついに優勝することができます。今回の優勝は熊本キャンパスにとっては13年ぶりの優勝となつたので喜びも大きいものでした。全国大会では各地区の強豪校やユニークなアイデアを持ったチームが集結するので地区大会以上に練習の成果を発揮し、ロボットの連続ジャンプ3桁以上、全国優勝を目指す部員一丸となって頑張っていきたいです。

今年の全国大会決勝。スタッフにせかされながら慌ててロボットを準備して心を落ち着かせる間もなく挑んだ結果、ミスが重なり、敗北。焦りが産んだ私の苦い思い出です。

今年、私はロボコン選手としては一步引き、ロボコン九州・沖縄地区大会の運営サポート学生になりました。次の試合に出るチームを呼びに行くと、慌てながらロボットの整備・修復をしているチームや、整備は終わっていても多少慌てた様子のチームがいくつもありました。昨年の経験から「これはいけない」と不安を感じた私は、呼びにいったチームに対して「ゆっくりでいいの」という言葉を付け足すよう心がけました。あくまで主役は選手の彼等、多少進行が遅れてもいいと考えていました。

熊本高専としては二年連続の地区大会優勝。この冊子が出るころにはもう全国大会は終わっていますが、熊本キャンパス・ロボコン部の方々には是非、焦らず慌てず落ち着いて全国大会に挑み、日本一を成し遂げてもらいたいです。





次は後輩に……

バドミントン部(元主将) 電子工学科5年 松永 季樹



11年間見続けた夢を達成した。全国大会、それはバドミントンを始めたころからの夢。高専に入學し団体戦の選手にもなれずあきらめかけた時に、引退する先輩から全国への思いを託された。再び全国への思いに火が付いた。疲労骨折など様々な困難があつた。9年続いた地区大会における2強の一角を破りバド部としては15年ぶりに全国大会出場を果たした。この全国大会出場は私一人の努力によるものではない。スーパーパワーだけの力でもない。私を支え5年間共に練習してきた同期。私に目標を示し続けてくれた先輩。部活動を盛り上げ、私にしつかりとついてくれた後輩。たくさんの知識と指導をしてくださった先生やコーチ。この熊本高専バドミントン部だったからこそ行けた全国大会だと思う。皆には本当に感謝しています。

後輩諸君!! 私には果たせなかつたさらなる夢、全国大会のメダルは任せたよ(^^)

今年間見続けた夢を達成した。全国大会、それはバドミントンを始めたころからの夢。高専に入學し団体戦の選手にもなれずあきらめかけた時に、引退する先輩から全国への思いを託された。再び全国への思いに火が付いた。疲労骨折など様々な困難があつた。9年続いた地区大会における2強の一角を破りバド部としては15年ぶりに全国大会出場を果たした。この全国大会出場は私一人の努力によるものではない。スーパーパワーだけの力でもない。私を支え5年間共に練習してきた同期。私に目標を示し続けてくれた先輩。部活動を盛り上げ、私にしつかりとついてくれた後輩。たくさんの知識と指導をしてくださった先生やコーチ。この熊本高専バドミントン部だったからこそ行けた全国大会だと思う。皆には本当に感謝しています。

今年、全国高専大会に出場し自分の努力の少なさを思い知られました。私は高専に入学する前から全国大会に出場することが目標でした。小学生のころから続けてきた水泳だったので望みはとてもありました。テストなどなれない学校生活の中だったので練習を怠りがちになつた時もありましたが、先輩方の支えもあり目標は絶対に変わることはありませんでした。

水泳部 人間情報システム工学科1年 森田 聰太

初めての全国を経験して

柔道部 情報通信エレクトロニクス工学科2年 嶋田 稔也

今年七月に鹿児島で行われた九州高専大会では、目標にしていた団体戦2位、個人戦では準優勝する事が出来ました。個人戦で初出場した全国大会、感想を一言で言うと「実力と練習量の差」です。1回戦での相手は4年生で、一層の気合を入れて試合に挑みました。しかし、時間ぎりぎりで相手にポイントを許してしまい負けてしまいました。自分の全てを出し切つての結果でした。試合後は悔いが残りましたが、同時に来年への目標もできました。

「もう一度全国出場して勝ちあがりたい。」

この目標を実現するためにもより練習を重ねていきたいと思います。

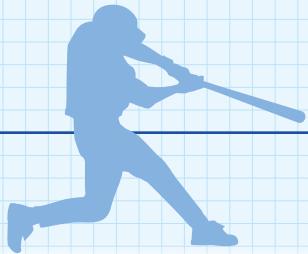
最後に、「ご指導いただいた顧問の先生方や家族、他にも応援していただいた方々には感謝しています。ありがとうございました。」



特集

Special Topic

高専大会&ロボコン・プロコン



二度目の正直

陸上部 機械電気工学科5年 穴井 晃太

九州大会優勝と全国大会3位！

野球部 機械電気工学科5年 吉田 玄徳

全国高専大会を終えて

サッカー部 生物化学システム工学科4年 原田 優



高専大会は終わりましたが、まだやり残していることがあるため引退できません。それは個人だけでなく、チームでも「日本一」になることです。高専駅伝優勝にむけて練習を頑張りますので、これからも陸上部の応援よろしくお願いします。

高専大会を通して多くのライバルに巡り合えました。彼らが、「負ける悔しさ」「勝つ喜び」を教えてくれ、選手としてだけでなく人としても成長させてくれました。私の陸上人生のなかで、とても大事な存在です。

高専大会は終わりましたが、まだやり残していることがあります。それは個人だけでなく、チームでも「日本一」になることです。高専駅伝優勝にむけて練習を頑張りますので、これからも陸上部の応援よろしくお願いします。



幸い、僕たちはあと1年残されているので、今回の経験を生かして、来年も再び全国大会に出場し、いい結果を収められるように努力していくたいと思います。

福島で開催された全国高専大会で1500m、5000mの二種目で優勝できました。やっと優勝の報告をすることができホッとしています。去年この場で言っていた「二度目の正直で優勝」を全国の舞台で有言実行し、お世話になつた方々へ一つ恩返しができたかなと思います。

九州大会で大会新記録をつくり、自信をつけて全国大会に臨めたのが、今回の成績を残せた要因となりました。高専記録を作れなかつたのは心残りですが、歴史ある大会に名を残せたことを誇りに思います。

全国で3位と初の快挙を成し遂げた僕らですが、ここまで来るのは、様々な苦労がありました。新チームの初めの頃は、皆忙しくまともに練習もできていませんでした。当然、試合でベストが出せず、不安感だけが募っていました。「このままでは負ける。」全員がそう感じていたはずです。新年度に入ると、忙しい中でも声を掛け合い、毎日グランドには遅くまで声が響いていました。チーム一丸となつて迎えた九州大会では、昨年敗れた大分高専に決勝で勝利し昨年の先輩方の雪辱を晴らすこともできました。

全国の舞台に臨んだ僕らの初戦は、開催校である秋田高専でした。序盤から主導権を握った僕らはそのまま初戦を突破したのです。二戦目の神戸市立高専とは、もはや高専のレベルを超えた投手戦、最後も相手のファインプレーによるゲーム

セット。負けはしたもの、最も熱い試合となりました。

ここまで出来たのは先生、コーチを始め、応援・サポートしているただいた方々のおかげだと思います。来年は後輩たちが全國優勝を報告してくれると思っています。来年もまた応援・サポートをお願いします。

全国大会は宮城県の仙台市で行われ、初戦は突破しましたが2回戦で茨城高専に敗れてしましました。実際に全国レベルのチームと試合をして、自分達のチームの力不足を感じましたが、同時に戦える可能性も十分に感じました。今回、全国のレベルを肌で感じることができ、とても貴重な経験をすることができたのも、教職員の方を始め、先輩方やOBの方々の応援・サポートがあつたからこそだと思います。ありがとうございました。

八代キャンパスサッカー部は、7月に行われた九州高専大会で、31年ぶりに予選を突破し、全国高専大会出場を決めました。九州大会では初戦から非常に苦戦しましたが、全員が持っている力を最大限発揮した結果、全国大会出場を決めることができました。



「高専大会&ロボコン・プロコン」

プロコンに参加して

人間情報システム工学科4年 宮本 穎



第24回全国高専プロコン大会競技部門チームメンバー
(左から宮本崇平、宮本穎、松村和朗)

プロコンに参加してサイコロは“振るもの”から“並べるもの”に概念が変わりました。今年のプロコンの競技部門はサイコロを用いて文字を伝えるという課題でシステムの効率化に加え、人力でいかに早く並べるか、というのも重要でした。そのため本番までサイコロ並べに勤しみ、サイコロをもう見たくないほど並べ続けました。その甲斐があり高速化を実現し、目指すは優勝のみと臨んだ試合でしたが、準決勝でシステムに障害が起きてしまい結果を残すことができませんでした。とても悔しかったですが、これまでの苦労は無駄ではなかったと思います。本番では手が震えるほど緊張しましたが、多くの練習をしたおかげで自信を持つことができ、全力を尽くすことができました。本番は練習と比べ物にならないくらい短い時間ですが、その本番で持てる自信というのは練習の量に比例すると実感することができ、とても良い経験になりました。



ま。

としては、先の見通しが甘かったこと、打ち合わせ不足等、多々あつたと思います。プロコンを終えてから反省会をしたのですが、反省することが山積みでした。ですが、反省することができ山積みでした。それだけ来年は今年よりも良く出来ること、それだけ来年は今年よりも良く出来ることであります。

プロコンを終えたことで、部活の新役員が決まり、僕が部長となりました。今後の活動としては、今年の反省を生かし、来年のプロコンで満足のいく結果を残せるような活動を行っていこうと思います。



総合準優勝といつたすばらしい結果を残せたのはクラスみんなの協力はもちろんのこと、岩坪先生や工場の方々の熱心な指導があつたからこそです。協力してくれださった多くの方々、本当にありがとうございました。

悔いはありませんでした。

プロコンに参加して

機械知能システム工学科3年 上田 尚人

「Japan Steel Bridge Competition 2013」に参加して

土木建築工学科5年 溝上 晴也

「今年もサイコロ使うって、また画像処理しないとなあ」とリーダーが言うなか、今年のプロコンが始まった。

というわけで、今年のプロコンは北海道の旭川で行われました。八代キヤンバスからは、課題部門5名、競技部門3名の計8名が参加しました。

結果は、課題部門は敢闘賞、競技部門は残念ながら上位入賞することは出来ませんでした。反省点

としては、先の見通しが甘かったこと、打ち合わせ不足等、多々あつたと思います。プロコンを終えてから反省会をしたのですが、反省することが山積みでした。ですが、反省することができ山積みでした。それだけ来年は今年よりも良く出来ること、それだけ来年は今年よりも良く出来ることであります。

この大会には五年土木建築工学科土木コースの全員で授業の一環として取り組みました。熊本高校は初出場ということで右も左もわからない状況からのスタートでした。ルールブックを熟読することから始まり、コンマ一ミリ単位の設計図の作成、溶接や穴あけといった加工、組み立てなどの工程を何度も躊躇ながら作業していきました。大会本番では、私たちにできる最大のパフォーマンスをすることができました。優勝まであと一步届きませんでしたが、悔いはありませんでした。

この大会には五年土木建築工学科土木コースの全員で授業の一環として取り組みました。熊本高校は初出場ということで右も左もわからない状況からのスタートでした。ルールブックを熟読することから始まり、コンマ一ミリ単位の設計図の作成、溶接や穴あけといった加工、組み立てなどの工程を何度も躊躇ながら作業していきました。大会本番では、私たちにできる最大のパフォーマンスをすることができました。優勝まであと一步届きませんでしたが、悔いはありませんでした。

九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会等結果一覧（八代キャンパス）

第50回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
陸上	1500m	5M 穴井 晃太	優勝
	5000m	5M 穴井 晃太	優勝
ソフトテニス	女子個人戦	2AC 田中 裕子	3位
		2BC 塚本 千尋	
バトミントン	女子団体戦	4AC 寺本有優美	3位
		3BC 上野 伶奈	
		2BC 真崎悠里香	3位
		1BC 坂田衣央里	
	総合		優勝
水泳	男子200m自由形	4AC 丸永 慎也	3位
	男子400m自由形	3MI 田中 純貴	2位
	男子400m自由形	3AC 伊津野省吾	3位
	男子800m自由形	3AC 伊津野省吾	2位
	男子100m平泳ぎ	4AC 渡辺 直人	3位
	男子200m平泳ぎ	4BC 渡辺 賢人	3位
	男子200mバタフライ	2BC 林 紘平	2位
	男子200m個人メドレー	3MI 田中 純貴	2位
		4AC 丸永 慎也	2位
	男子400mリレー	2BC 林 紘平	
		3MI 田中 純貴	
		3AC 伊津野省吾	
		4AC 丸永 慎也	2位
	男子400m メドレーリレー	4AC 渡辺 直人	
		3MI 田中 純貴	
		2BC 林 紘平	
硬式野球	女子100m自由形	5E 高野恵里奈	3位
	女子100m平泳ぎ	5E 高野恵里奈	1位
	女子100m平泳ぎ	2AC 上田 真実	3位
	女子50mバタフライ	2AC 上田 真実	2位
	女子50mバタフライ	4AC 森元 千裕	3位
		5E 高野恵里奈	1位
	女子200mリレー	2AC 上田 真実	
		5C 清田 直子	
		4AC 森元 千裕	
		5B 門内 瑞樹	優勝
		5C 溝口 稔也	
		5M 村上 勇人	
		5C 小野 幸輝	
		5E 加々見征弥	
		5E 猿渡 至	
		5M 緒方 智	
		5M 宮崎 綾	
		5M 吉田 玄徳	
		5E 岩崎 将矢	
		4AC 早野 彰人	
		4BC 島田 雅人	
		4MI 門 佳輝	
		4MI 北園亮太朗	
		4AC 貞松 稔和	
		3AC 田口 雅智	
		3BC 江島 翔	
		3BC 小嶋 竜生	
卓球	男子ダブルス	3MI 上田 徹	3位
		1BC 浅尾雄一朗	
	女子団体戦		優勝
	女子シングルス	2AC 高澤花奈惠	準優勝
		2AC 高澤花奈惠	
		2AC 山口あかり	優勝
サッカー		3MI 中神 宏崇	準優勝
		3MI 前田 崇登	
		3BC 内山 直哉	
		4BC 原田 優	
		4MI 松本 悠	
		4MI 山崎 雅弥	
		2AC 平川光一郎	
		4MI 野田 健翔	
		4MI 藤本航太朗	

競技名	種目名	選手氏名	順位
サッカー		3MI 小松 健吾	準優勝
		2AC 永野 蓮太	
		3BC 高木 勝也	
		4BC 田口征汰郎	
		4AC 宮崎 尽	
		3MI 上角 瞭介	
		2MI 後藤 祥平	
		2MI 竹井 祐樹	
柔道	男子個人(60kg以下級)	4MI 古崎 伴征	準優勝
バレーボール		5B 渡辺 まり	3位
		4BC 杉本 芽以	
		4AC 甲斐早也香	
		3AC 塙内 香絵	
		3AC 中村 菜月	
		3AC 藤元 一葉	
		2MI 切通 香	
		1MI 尾方 碧衣	
テニス	女子シングルス	3AC 島田 空	3位

第35回九州地区高専少林寺拳法大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
少林寺拳法	単独演武 (式段以上の部)	5B 萩毛 佑美	2位 (女子) 最優秀賞
	単独演武 (有段者の部)	3AC 上土井佑太	
		5M 松本 宇恭	
		2MI 岩下 将大	
	単独演武 (段外者の部)	1AC 高城 奈緒	
		5B 萩毛 佑美	
		5B 松下 友郁	
		5M 松本 宇恭	
		5M 佐藤 史基	
	団体演武 (有段者の部)	3AC 上土井祐太	
		2MI 岩下 将大	

第48回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
陸上	1500m	5M 穴井 晃太	優勝
	5000m	5M 穴井 晃太	優勝
水泳	男子400m自由形	3MI 田中 純貴	8位
	女子100m平泳ぎ	5E 高野恵里奈	4位
		5E 高野恵里奈	6位
	女子200mリレー	5C 清田 直子	
		4AC 森元 千裕	
硬式野球		2AC 上田 真実	3位
		5M 村上 勇人	
		5M 緒方 智	
		5M 宮崎 綾	
		5M 吉田 玄徳	
		5E 岩崎 将矢	
		4AC 早野 彰人	
		4BC 島田 雅人	
		4MI 門 佳輝	
		4MI 北園亮太朗	
		4AC 貞松 稔和	
		3AC 田口 雅智	
		3BC 江島 翔	
		3BC 小嶋 竜生	
卓球	男子ダブルス	3MI 上田 徹	3位
		1BC 浅尾雄一朗	
	女子団体戦		優勝
	女子シングルス	2AC 高澤花奈惠	準優勝
		2AC 高澤花奈惠	
サッカー		2AC 山口あかり	優勝
		3MI 中神 宏崇	準優勝
		3MI 前田 崇登	
		3BC 内山 直哉	
		4BC 原田 優	
		4MI 松本 悠	
		4MI 山崎 雅弥	
		2AC 平川光一郎	
		4MI 野田 健翔	
		4MI 藤本航太朗	
		5B 門内 瑞樹	
		4MI 門 佳輝	
		4MI 北園亮太朗	
		4AC 早野 彰人	

第43回西日本地区高等専門学校弓道大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
弓道	男子団体の部	5C 小原 礼	2位
		4C 西田 尚人	
		5E 江口 凌也	
		5M 林田 典大	
		5E 長野 海斗	

第46回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
英語弁論	スピーチの部	3BC 柳森 虹保	優勝

第35回全国高等専門学校通信弓道大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
弓道	男子団体の部	5C 小原 礼	1位
		4C 西田 尚人	
		5E 江口 凌也	
		1MI 河副 純哉	
		5E 長野 海斗	
男子個人の部	1MI 河副 純哉	1位	1位

第24回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

競技名	種目名	選手氏名	順位
プログラミング	課題部門	5E 逢田 一平	敢闘賞
		4MI 岩本 優	
		3AC 関原 至音	
		2MI 岩下 将大	
		2MI 渡邊 兼誠	

全国高等専門学校デザインコンペティション2013in米子

競技名・種目名	選手氏名	順位
第6回 3次元デジタル設計造形コンテスト	5M 林田 典大	審査員 特別賞
	5M 尾上 智	
	5M 益田 慧祐	
第10回全国高等専門学校 デザインコンペティション (空間デザイン部門)	2MI 濱崎 琢斗	審査員 特別賞
	4AC 丸田 悠理	
4AC 重田 侑馬	4AC 重田 侑馬	審査員 特別賞

Japan Steel Bridge Competition 2013

選手氏名	順位
土木建築工学科5年 土木コース	構造部門 優勝／総合部門 準優勝

九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会等結果一覧（熊本キャンパス）

平成25年度 九州沖縄地区高専体育大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
バドミントン	男子団体	E5 松永 季樹	2位
		E5 山内 將護	
		E5 大瀬 聖也	
		E5 上野 雅裕	
		I5 和田 翔	
水泳	女子団体	C5 島津 康平	3位
		CI3 飯塚 雄基	
		2-1 道家 光宏	
		HI4 石橋 成美	
		HI4 岩尾 麻衣	
柔道	団体	HI3 片岡 千知	2位
		2-3 木村 遥	
		100m背泳ぎ(男子)	
		HI3 大塙 和希	
		100mバタフライ(男子)	
バスケットボール	女子団体	1-2 森田 聰太	2位
		200mバタフライ(男子)	
		1-2 森田 聰太	
		100m自由形(女子)	
		TE3 中釣 未鈴	
	個人 73kg以下	50m背泳ぎ(女子)	2位
		TE3 中釣 未鈴	
		CI3 中村 雅也	
		2-1 嶋田 稔也	
		2-3 平原 康裕	
	個人 73kg以下	E5 溝上 農	3位
		E5 山村 晃弘	
		HI3 田口 一精	
		CI3 工藤 直樹	
		2-1 嶋田 稔也	
	女子団体	2-3 平原 康裕	3位
		C5 高木 由香	
		HI4 藤崎 史恵	
		TE4 工藤 愛美	
		HI4 中神 楓子	
	女子団体	CI3 福原 優奈	3位
		HI3 早田 有里	
		CI4 梶原 まな	
		2-2 今泉 葵	
		2-1 松本 留依	
	女子団体	2-1 面高 雅	3位
		2-1 竹下 紗織	
		C5 高木 由香	
		HI4 藤崎 史恵	
		TE4 工藤 愛美	

第19回西日本地区高等専門学校空手道大会

競技名	種目名	選手氏名	順位
空手道	総合成績		2位
		C5 田代 庸祐	2位
		TE4 田代 侑哉	
		CI4 前田 廉	
		2-2 西村 深太	
団体形	団体形	1-2 吉永 隼作	2位
		C5 田代 庸祐	
		TE4 田代 侑哉	
		2-2 西村 深太	
		CI4 田代 庸祐	
男子個人組手	男子個人組手	2-3 木村 遥	優勝
		TE4 田代 侑哉	

ロボットコンテスト2013 九州沖縄地区大会

ロボット名	順位
Come on jumper (Aチーム)	優勝 特別賞(東京エレクトロンFE株式会社)

ロボットコンテスト2013 全国大会

ロボット名	順位
Come on jumper	ベスト4 特別賞(東京エレクトロンFE株式会社)

第46回九州沖縄地区高専英語弁論大会

種目名	選手氏名	順位
スピーチ部門	HI3 重信 亮太	審査員特別賞

第59回青少年読書感想文全国コンクール県審査

種目名	選手氏名	順位
課題図書部門	TE3 工 貴大	最優秀賞
自由図書部門	HI3 片岡 千知	優秀賞
自由図書部門	2-3 木村 遥	優秀賞

平成25年度「科学の甲子園」全国大会熊本県出場校選考会

選手氏名	順位
2-1 上野 裕一郎	
2-2 渡邊 大樹	
2-1 古川満理奈	
2-3 田尻 裕喜	
2-3 上野 拓武	
2-3 工藤 寛樹	準優勝

研修旅行＆インターンシップ

海外研修旅行を終えて

情報通信工レクトロニクス工学科4年 田中 雅

10月7日から12日まで海外研修旅行でシンガポールに行ってきた。私自身初の海外旅行ということもあり、シンガポールでの経験はどれも貴重なものだった。

村田製作所への企業訪問では、積層セラミックコンデンサの製造過程を見学した。その過程において、村田製作所独自の技術で作られた機器が使用されており、日本の技術が海外でも活用されていることに驚いた。

テマセクの学生との交流では日本の文化を紹介したり、技術交流としてライントレースを行つたりした。私はほとんど英語が話せないためシンガポールへ行く前は旅行に対して消極的だった。

しかし実際に行ってみると、言語や文化の違いは関係なく毎日楽しく過ごすことができた。

この研修旅行を通して、私は改めて英語力の無さを実感した。今後は、更なる英語力の強化に努めていきたいと思う。



海外研修旅行を終えて

制御情報システム工学科4年 上村 泰隆

私たちC14は、2週間シンガポール研修へ行つきました。個人的に初めての海外ということもあり不安だらけだったのですが、現地の人たちの受け入れがとても丁寧でなんなりと馴染むことができました。日本が「オ・モ・テ・ナ・シ」なんて言つていいのかと感じるほどでした。2週間の中で特に気合を入れて取り組んだのはSTEPSS。STEPSSはシンガポールへ行く前にあらかじめ日本の技術について調べ、それをプレゼンやポスターにして英語で発表するイベントでした。私たちはポスターでの発表でしたが、出発前にかなりの準備不足で仲間と担当の先生の協力のもと22時まで学校に残つてやつと完



研修旅行の感想

人間情報システム工学科4年 北川 祐輝

人間情報システム工学科4年生の研修旅行としてシンガポールに行つきました。これが私にとって人生初の海外旅行でした。行く前は不安がたくさんありましたが、とても充実した5日間でした。企業見学として訪問した昭和電工シンガポールでは、ハードディスクを製造するクリーンルームを見学させて頂き、現地で働かれている日本人の方から海外で働くことについて話を聞くことができました。また、テマセクポリテクニックでの学生交流ではとても親切にして頂きました。私達のつたない英語を理解しようとしてくれるのですが、なかなか伝わらず自分の英語力の低さを痛感しました。彼らとはその後の自由時間でも行動と共にし、とても仲良くなることができました。英語の大切さや外国の雰囲気につれていたときの感動はとても大きなものでした。他にも書ききれないほどのいい経験をさせてもらいました。先生方、TPPの学生さんたち、本当にありがとうございました。



研修旅行＆インターンシップ

シンガポール・台湾研修旅行に参加して

機械知能システム工学科4年 白井 耀平



私達は、海外研修としてシンガポールと台湾に行きました。まずダイキン・シンガポールを訪問し、そこで働いておられる日本人の社員の方の話を聞き、海外で働くイメージを掴むことができました。またシンガポールでの高専機構にあたるSingapore Polytechnicを訪ね、校内見学やワークショップを通じて現地の学生と交流をし、みんなで取り組む達成感や楽しさを学びました。台湾ではフェイエイホン・テクノロジーを訪問し、さまざまな製品やソフトを体験させていただき、スマートフォンのアプリ開発や家電のワイヤレス化など行つていて大変勉強になりました。そのほかの時間は、観光や散策などして海外の文化に触れることができました。自由行動では露店の人に値段を聞いたり、タクシーに乗り目的地を伝えたりするなど現地の人とコミュニケーションをとれたので良い経験となりました。

研修旅行に参加して

建築社会デザイン工学科4年 丸田 悠理



11月7日から11日まで私たち建築社会デザイン工学科は研修旅行として京都、宮城、東京と様々な場所へ行きました。普段なかなか見ることが出来ない建造物をたくさん見て感じたことは、建造物等はたくさんの人々の思いから造られているということです。それを一番強く感じたのは、宮城で見学した千年希望の丘とみんなの家です。千年希望の丘は、もしもの時の避難場所として二度と同じ様な悲劇を繰り返さない為に造られ、みんなの家は被災して心に傷を負った人々の癒しの場として用いられています。この二つは背景に人々の様々な想いがあることを、宮城県岩沼市の市長さん及びその関係者の方々からのお話で良く分かりました。この二つに限った事ではなく何故この敷地にこの建物が建っているのか、それにはきちんととした理由があるはずで、それは人々の思いだと私は思いました。今後私は、建築物をただ見学するのではなくその建築物が建てられた背景についても触れていきたいです。

ニッポンの先端企業と研究所をめぐり

生物化学システム工学科4年 森崎 冴香



10月上旬、5日間の工場見学旅行に参加し、巨大な化学プラント、高品質な化粧品の工場、生命誌研究の施設、日本の創薬を加速する公的研究所を見学しました。都会のやたらと大きな建物に圧倒されながらも無事旅行を終えることができ、ほっとしている次第です。

さて、今回の工場見学旅行を通して学んだことがあります。まず、企業のおおまかな雰囲気です。これまで深く意識したことはなかったのですが、進路決定の時期が近づいています。クラスで事前学習して臨んだので各事業の位置づけは理解しやすく、その上で実際に企業の雰囲気に触れられたことは今後の進路を考える良い機会となりました。次に、専門分野だけではなく様々な知識が必要とされていることです。例えば、バイオとITは思った以上に密接に関係していることを教えていたいただきました。IT系の科目は不得意で避けていた部分もあつたので、考え方を改め努力しようと思いました。5日間とも楽しく有意義な時間を過ごすことができました。この経験を今後の学生生活に活かしたいです。

研修旅行＆インターンシップ

インターンシップに参加して

制御情報システム工学科4年 佐藤 優樹

インターンシップを終えて

機械知能システム工学科4年 佐野 巧弥

不安を取り除き、安心を確保することである。状況を説明する際、エンジニアにとつては当たり前の知識でも、一般には知られていないことが多い。自分の言っていることが間違いではなくても、顧客が納得しなければ仕事としては失敗している。入念な点検、しつかりとした謝罪、様々な改善案の提案など、顧客を第一に考えた仕事をしなければいけない。顧客がいて仕事は成立する。遠回りでも、時には自分の意見や感情を我慢して顧客の要望に応える「忍耐力」が必要である。



インターンシップから2ヶ月。職場で得た次の3つのスキルは確かに自分の力になった。

①「対応力」。ダイキン株式会社東日本サービス部は、空調業界では国

内トップクラスのシェアを誇る大企業である。そこで顧客のニーズに合わせたサービス提供、具体的には工アコンの修理や点検を行った。故障するケースは全く同じではない。実際に見て点検をして、原因を特定しなければいけない。マニュアル通りの作業と異なり、その場で持てる能力や知識を応用して、自分で考えて問題を解決する「対応力」が必要不可欠になる。

②「忍耐力」。故障の修理だけが仕事ではない。最優先するのは、顧客の

③「組織力」。今まで、仕事ができる人は能力や才能が高い人で、会社とはただ仕事を与えられる場だと思っていた。しかし実際は、仕事ができる人は、能力の高さも大事だが、最も大切なのは協調性であり、会社とは1つのチームであった。掲げられた企業理念を社員全員が共有し、組織を形成している生の姿を目の当たりにできた。

インターンシップ後、姿勢を変えた。テストのためではなく、自分の能力にするための勉強と認識し、課題を作つてみて再度ものづくりの楽しさをいきたい。



感じることができました。

五日間の研修のうち、最も印象に残ったのは一日目に行つたグループワークです。豊田高専の方々と一緒に安全教育、ストローでのクレーン製作などをしました。ここでは、豊田高専のレベルの高さを感じ、また、たいした目標もなく研修に参加した自分の意識の低さを痛感しました。さまざまな部署で実習させていただく中で、専門に特化した知識だけでなく自分の知識が必要だと実感しました。

私は、熊本県水俣市にある河村電器産業株式会社水俣工場で「実際の産業界などの知識や技術・技能にふれ、学習意欲を喚起する。」というテーマの下、五日間の研修に参加しました。

研修に先立ち、各部署の見学をさせていただきました。現場の方々には、「安全第一、品質第二、生産第三」という工場内で優先すべきことを教えていただきました。その後、現場実習を行い、実際に製品として売り出される配電用分電盤の配線作業を行いました。一つの製品を作るのにいくつもの部署が協力し合っているのを見て、人間関係やコミュニケーションの大切さを学びました。また、実際に製品を

上では、やはりコミュニケーションをうまくとることが大事だと感じ、挨拶や返事から改善していくこうと思いました。この経験を今後の学生生活、就職活動に活かしていきたいと思いまして。インターンシップは異なる価値観を知り、自分を見つめなおす良い機会です。ですので、後輩の皆さんも積極的に取り組んでみてください。

研修旅行＆インターンシップを終えて、多方面から考えるように意識していました。この貴重な経験を今後に活かしていきたい。

研修旅行＆インターンシップ

本年度の夏休みに、海外インター
ンシップ（夏期）に参加してきました。
場所はシンガポールのルネサスエレ
クトロニクス（Renesas Electronics
Singapore: RESG）期間は8/19-9
/6の約3週間です。『マイコンによ
る入出力制御と操作演習』と題して、
ルネサスのStarter Kit RX11を使
用してひとつのプロジェクトを完成す
る、という実習を行い最終日には英語
によるプレゼンで成果発表を行いま
した。

実は4年生のときからこの海外イ
ンターンシップに興味があり、昨年の
グラムに参加した先輩の
発表を聞いたのをきっかけに、今回思い切って応
募してみました。7月には、今回の夏期海外イン
ターンシップの全参加者25名が東京に集結し、一
泊二日の事前研修が開催されました。“全国の
高専を代表して海外いくのだから、その自覚と
プライドをしっかりと持



海外インターンシップに参加して

電子情報システム工学専攻1年 高山 なつ樹

インターンシップに参加して

生産システム工学専攻1年 情報システムコース 深水 一拡

つこと“が大事です。

シンガポールには、その温暖な気候のおかげでトロピカルな花がそこら中に咲いていてとてもきれいです。本科4年時に研修旅行でシンガポールへ行つたときは料理もおいしくないし屋台は汚いし暑いし……と、国自体に苦手意識を持つて帰つてきました。しかし今回は前回よりりずいぶん長めに滞在したことで、シンガポールという国がとてもすきになりました。とにかく現地の人たちがあたたかくて、見知らぬ人にも何度も助けられました。東南アジアは情熱にあふれています！日本では感じられないものがたくさんあります。



私は、9月2日から9月6日にかけて福岡県にある安川情報システム

株式会社に、インターンシップでお世話したり、会社で周りの社員さんたちと話したりして、海外で働くことのイメージが明確につかめました。事前研修での話に戻りますが、今の若い人们はなかなか国外に出たがらない

そうですね。しかし、可能性に満ちあふれた今こそ、どんどん海外へ行つてインスピレーションを受けることが大切なのです。高専機構は海外インターンシップの制度を設け、学生の海外進出を意欲的に支援してくれており、海外への距離はそう遠くない現状です。学生のみなさんは、このチャンスをぜひ自分のものにしてください。

私が実習させていただいた内容は2つで、マーカー検出における正解座標の作成とC++によるコマンド読み取りマーカー検出における正解座標の作成では、開発中のマーカー検出システムのテストを行う際のサンプル画像の点の座標を一つ一つ手作業で確認してエクセルにまとめました。アナログ的な作業が主でしたが、システムによる画像認識の結果が正しいかどうかを判断するための指標を作る重要な作業であり、とても責任感を感じました。情報系の仕事を聞くとプログラミングを真っ先に思い浮かべますが、アナログな作業も重要であるということを再認識することが出来ました。2つ目のC++によるコマンド読み取りクラスの作成では授業で習ったことを活かせる場面が多く、とても有意義でした。また、細かい部分の知識不足に気付かされたり、プログラムを見やすくするためのコメントのつけ方やエラー修正など学ぶ事も多く、充実した実習でした。

今回のインターンシップは、現在の自分の力が実際にどの程度通用するのか確認する良い機会となりました。また、インターンシップで得られた貴重な体験を今後に活かしていきたいと思いました。

私が実習させていただいた内容は2つで、マーカー検出における正解座標の作成とC++によるコマンド読み取りマーカー検出における正解座標の作成では、開発中のマーカー検出システムのテストを行つたところ、サンプル画像の点の座標を一つ一つ手作業で確認してエクセルにまとめました。アナログ的な作業が主でしたが、システムによる画像認識の結果が正しいかどうかを判断するための指標を作る重要な作業であり、とても責任感を感じました。情報系の仕事を聞くとプログラミングを真っ先に思い浮かべますが、アナログな作業も重要であるということを再認識することが出来ました。2つ目のC++によるコマンド読み取りクラスの作成では授業で習つたことを活かせる場面が多く、とても有意義でした。また、細かい部分の知識不足に気付かされたり、プログラムを見やすくするためのコメントのつけ方やエラー修正など学ぶ事も多く、充実した実習でした。

今回のインターンシップは、現在の自分の力が実際にどの程度通用するのか確認する良い機会となりました。また、インターンシップで得られた貴重な体験を今後に活かしていきたいと思いました。

第十一回電波祭 -Active Liberty-

電波祭実行委員長 情報工学科5年 望月 寿人



し、それらを経験して思ったのは「自分で電波祭を作つてみたい」という強い気持ちでした。しかし、それだけで実行委員長をやれる自信はなく、どうしようかと迷っているときに先輩から「その気持ちだけあれば十分だ」というお言葉を頂き、自分は実行委員長をする決意をしました。

十月二十六日、二十七日の二日間の日程を久しぶりに晴天で始まり晴天で終わることができた第十二回電波祭。

今年の電波祭のコンセプトは「Active Liberty」。

束縛のない自由という意味の「Liberty」と活発的、積極的という意味の「Active」の二つを組み合わせて「学生も来場者も先生も電波祭に参加してもらいたい」という気持ちを込めました。

思えば自分の我儘が今年の電波祭の始まりでした。自分は二年生から実行委員になり、そこから三年生で執行部書記、四年生で副実行委員長と、文字で書くと短いですが、その間には多くのことがありました。嬉しかったことや悲しかったこと、驚くようなことや感心するようなこと。決して楽な道のりではなかつたと思ひます。しか

十月二十六日、二十七日の二日間の日程を久しぶりに晴天で始まり晴天で終わることができた第十二回電波祭。一番焦つたことと言えば、電波祭当日を狙つたかのように現れる二つの台風。本気で電波祭が中止になるのではないかと思うと、涙が出そうになります。「電波祭当日は雨」というジンクスがとうとう台風まで……と半ば諦めていたところに、「一つの台風が横に不自然な方向に曲がっていく」という現象が起きました。これが神風か!と皆で騒ぎながら迎える電波祭当日。

一日目。今までこないほどの晴天の中、第二体育館の中でオープニングイベントが開始されました。雨でないのになぜ中にはステージがあるのか疑問に思つた人は多いでしょう。実は今年のステージ、最初から体育館の中に作る予定だったのです。外でなく中で

幾度と変わっていく学校施設の改修工事範囲や、容赦なく起きる様々なアクシデント。それらに一緒になって立ち向かってくれたのは部門長を中心とする実行委員でした。

二一開幕一番に流した時、観客の方々があまりの迫力に呆然とする様を見て、やつたぜ! と一人でガツツポークしていました。また、二年生の上野、宮本、三年生の中原が作つてくれた電光掲示板を用いたインフォメーションディスプレイ、公式HPやインフォメーション部門のアナウンス、装飾部門の案内板、ファーレードイベント部門の企画、広報部門のポスター、学生模擬店の効果もあって、かなりの大盛況でした。そして二日目。ステージイベントではタレントの高村公平さんと林田雪菜さんの二人にMCを担当してもらい、さらに盛り上がりを見せました。電子制御工学科5年渡邊さんが主体となつたフラッシュモブでは、観客の皆様に多くの拍手を頂きました。電波祭の終わりを告げるファイナーレイベントにて抽選会を行い、自分が賞品をもつて壇上に上がつた時の気持ちが、言葉では言い表せません。片付け終わりの実行委員の集まりでは、思わず涙が流れ出て止まませんでした。

第十二回電波祭、二日間の来場者数合計は、二七二三人。自分が知る中では最多の来場者数となりました。ここまで電波祭に出来たのは模擬店出店やイベントに参加してくれた一般学生、来場者の皆様、そして自分を支えてくれた実行委員皆のおかげです。本当に、本当にありがとうございました。

やつた理由はステージイベントに映像を取り入れるため。電子制御工学科5年緒方君に作成してもらつたオープニング映像をオープニングセレモニー開幕一番に流した時、観客の方々があまりの迫力に呆然とする様を見て、やつたぜ! と一人でガツツポークしていました。また、二年生の上野、宮本、三年生の中原が作つてくれた電光掲示板を用いたインフォメーションディスプレイ、公式HPやインフォメーション部門のアナウンス、装飾部門の案内板、ファーレードイベント部門の企画、広報部門のポスター、学生模擬店の効果もあって、かなりの大盛況でした。そして二日目。ステージイベントではタレントの高村公平さんと林田雪菜さんの二人にMCを担当してもらい、さらに盛り上がりを見せました。電子制御工学科5年渡邊さんが主体となつたフラッシュモブでは、観客の皆様に多くの拍手を頂きました。電波祭の終わりを告げるファイナーレイベントにて抽選会を行い、自分が賞品をもつて壇上に上がつた時の気持ちが、言葉では言い表せません。片付け終わりの実行委員の集まりでは、思わず涙が流れ出て止まませんでした。

最後に来年に引き継ぐ後輩に一言。やる気を出せばそれだけで十分。とは実行に移すだけ。やるからには全うで! 頑張れ!!



学生会から

高専祭を終えて

高専祭実行委員長 機械知能システム工学科 迫 勇太

上に学外の方々や先生方、そして、学生同士の繋がりを意識して欲しいという想いがあつたため、『LINE』に決定しました。

この高専祭をキッカケに、今まで接点が無かつた人とも関わることができただのなら嬉しいかぎりです。



昨年、自分が先輩方がテキパキ仕事をこなしているのを、只ボンヤリと見ていただけで、口クに手伝うこともできませんでした。

今年こそはという思いとは裏腹に、4月頃の動き始めから、スponサー回りやリハーサルなど、様々なことが、要領の悪さから後手に回り、常にパニックになりながら準備を進めてきたように思います。

高専祭にお越し下さったみなさん、楽しんでいただけましたでしょうか。

昨年の高専祭は、「はしやげ!」というテーマ通り、皆が心から楽しめる、非常にハジけたものとなりました。

そのため、今年も本番に影響を与えるような、一つの共通意識を抱けるテーマにしたいと思い、その設定に非常に悩まされ、様々な案を考えました。

その中でも今年は、学生に、例年以

り上げてくれました。本祭2日目は不安定な空模様の中、体育館からのスタートとなりました。本祭中最も盛り上がる美女コンだけでもなんとかステージでと思い、

小雨が降る中強引に外で行つたにもかかわらず、中庭を埋め尽くすほど多くの学生やお客様が集まり、出演者に対しても声援や拍手を送ってくれました。

体育的イベントでは天氣にも恵まれ、青空の下、清々しい気持ちでスポーツに励むことが出来ました。吉田クンのドラムロールはきっと忘れることが出来ないでしょう。

この4日間は、準備にかけた長い時間に対しても、あまりにもあつさりと、流れ星のように過ぎ去つていきました。

出来れば終わつて欲しくない、このまま永遠に高専祭を続けていたい、そう思いました。

全てが終わつてしまつた今になつて、「もう少し、こうしどけば良かったなあ。」と後悔するこ

とが幾らかあります。しかし、それ以上に、沢山の人と協力してイベントを創り上げたということに対する感動や喜びのほうが圧倒的に大きいです。

何だかんだで、いざ始まつた高専祭。前夜祭では、年に続き演劇を鑑賞しました。普段なかなかこういったものを見る機会の無い人にとって、非常に良い経験になつたと思います。公演後の上田クンの感想もgoodでした。

本祭1日目は、ついに本番ということで、皆の緊張やワクワクさんが伝わつきました。ステージではコスプ

人前で話す、何かをするということがあまり得意でないボクに、付いて来てくれた学生会や実行委員の皆、ありがとうございました。モゴモゴ喋つて何言つてんのか分かんないことも多かつたと思いました。スマセン。

そして、様々な方面への橋渡しとなつて下さつた古嶋先生、本当にありがとうございました。がとうございました。

高専祭最高!



平成25年度教員研修会について

熊本キャンパス 教務主事 古江 研也



毎年交互開催をしている教員研修会は、今年度は熊本キャンパスが担当することになりました。目的は、「両キャンパスの教員が一緒に研修を受講することで、一つの高専としての意識を高めながら、教員の教育研究の資質向上を目指すと共に、相互の理解や情報の共有を行うことで、互いの親睦を深める。」というものです。研修は、教育の質の向上、改善を担当するFD委員会が企画し、まだ猛暑の余熱が残る9月2日(月)、出張などを除いた両キャンパスの全教員110名が参加して行われました。午前中は、今後の教育に必要なシステムや知識を得るために講習会、午後は決められたテーマについての分科会を通じて教員間の共通理解を深めていくプログラムとなりました。今年度の分科会のテーマは、「モデルコアカリキュラムへの対応について」という内容でした。これは、高専機構が全国の高専に導入することになつて新しいカリキュラムについて、現行のカリキュラムとのマッチング、さらには到達目標の評価方法についてのワークショップを行なった。車での移動に1時間は要する両キャンパス教員の親睦を深めるため場所を学外に移し、情報交換会を行ないました。こちらでは、30名弱の教員が日々の思いを語り合う和やかな光景が見受けられました。

午前

①熊本高専の情報セキュリティーポリシーについて(石原情報セキュリティ推進委員長)※ 熊本キャンパス教員のみ

②e-Learning講習会(小松IC T活用学習支援センター副センター長)

③知的財産を守るために基礎知識

(講師 高宮章介理士 講師紹介 清田地域イノベーションセントラル)

午後

モデルコアカリキュラムへの対応について

全体会(分科会・専門学科

6学科・共通教育科・ICT担当
(八代)～全体会(分科会のまとめ発表)

高専大会・高専祭を終えて

八代キャンパス 学生主事 四宮 一郎

今年度の九州沖縄地区高専体育大会は、本キャンパスを主管校として開催されました。今年度は、十月に開催されたロボコン九州沖縄地区大会の担当校でもあつたため、ロボコンの準備も進めながらの大会となりました。本キャンパスは主管校として6種目を担当し、大会の開催・運営に当たりました。七月の猛暑の中の大会、また、十一月のラグビー競技にご協力いたしました。お陰様で無事全競技終了しました。また、すべての競技において協力してくれた補助学生にも大変感謝しています。本当にありがとうございました。

さて、今年度の大会では、陸上部をはじめ、各クラブの活躍には目ざましいものがありました。陸上部では、機械電気工学科5年穴井晃太君が千五百mと五千mで優勝し2冠を達成(全国大会でも2冠を達成)、野球部が優勝(三十年ぶりの全国大会出場)、サッカー部が準優勝(三十一年ぶりの全国大会出場)という成績を残しました。その他に優勝(三十一年ぶりの全国大会出場)という成績を残しました。その他の学生会は高専祭の準備に取り掛かることになります。毎年のことです。が、夏休みが終わると、一ヶ月ほどで高専祭を



迎えることになります。イベントや企画の立案、パンフレット及びポスター作成、スponサー回り等、一ヶ月では準備が間に合わないため、夏休み前から準備を始めることになります。中には、ボスターやパンフレット作成のために自宅に帰省せず、夏休みのほとんどを寮に残り作業を続けた寮生もいました。このような学生会の努力もあって、高専祭当日を迎えるわけですが、ここに至るまでには、学生会役員だけではなく、多くの高専祭実行委員が準備に係わっていたことも忘れてはなりません。このようなイベントでは、実行委員長はじめ、各イベント責任者に目が行きがちですが、陰で高専祭を支えてくれた実行委員の学生たちの力添えがあつて高専祭の成功があることを学生会役員、高専祭に参加した学生たちは忘れないでください。

高専大会や高専祭等のイベントは今後もやつてきます。大会に出場する学生やイベントに参加する学生には、準備、運営には多くの学生が係わっており、学生の協力がなければ、大会やイベントは成立しないということを覚えておいてください。また、自分自身がサポートする側に回った際には、精一杯サポートをしてあげてください。それが人間力を向上させることになると私は思います。今後の皆さん、の活躍を期待します。

委員会より

秋の行事を終えて

熊本キャンパス 審務主事 光永 武志



熊本キャンパスの学生寮は、昨年度より務めております。高専の学生寮は、

自治的な大学の寮や自由なアパート等とは異なり、決まった日課に基づいた集団生活により、協調性やリーダーシップを育成することを目標とした教育寮と位置づけられています。

今年度の明和寮は、「harmony（調和）」をテーマに、学び合いの場としての学生寮の確立と、一層の規律遵守に基づく快適な生活環境の確保を目標としています。具体的な取り組みは次の三点です。

- ①心地よい生活環境の整備
- ②緊張感のある学習環境の整備
- ③他者への思いやりの醸成

このうち、「他者への思いやりの醸成」実現のために、まずは互いをよく知り合うことが前提となると考えます。この点については、昨年度後期からのイベント委員会の努力は特筆すべきものがあります。委員長の前田廉君(制御情報システム工学科4年)を中心とする限り毎月一度の寮生会イベント実施を目標に掲げ、これまでほぼ実現しております。

今年度前期の主なイベントを挙げますと、新入寮生歓迎ス波ーツ大会・BBQ大会(4月)、映画鑑賞会(5月)、肝試し大会(6月)、夏祭り(8月)などを行いました。

保護者の皆様におかれましては、寮生指導に関しましてこれまで以上にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

八代キャンパス専攻科の活動より

生産システム工学専攻長 木場 信一郎



秋という季節は、毎年

足早にやっ

きます。特に専攻科の学

生諸君は、わ

れわれより

強くそれを

ない状況でした。このような状況下で

かなり苦戦してたようですが、就学中

の全学生が学位授与申請書類を滞りな

く提出しています。

専攻委員会では、平成27年度入学生

から履修することになる生産システム

工学専攻の新カリキュラム策定と熊本

高等専門学校生産システム工学教育プロ

グラムが目標とする学習・教育到達

目標の案をまとめています。これは、組

織とカリキュラムの変更により専攻科

の充実を目指した高度化再編に加え

て、本科3学科(「機械知能システム工

学科」「建築社会デザイン工学科」「生物

化学工学科」)に高度化再編された準学

士課程との整合をとり、エンジニアリング

デザインや創成教育、高度化と複合

に向けた専門工学の充実など学内外の

要請を踏まえた新カリキュラムとなる

よう設計しています。これについては、こ

れからがまとめの段階となります。

来年の春が、1年の締めくくりとなるわけですが、学生諸君の成長を目の当たりにできる喜びを感じるこの季節

は、まさに実りの秋というところでしょう。社会に出てイノベーションの担い手として活躍される学生諸君の、さらなる成長の源となることを期待してお

ります。

これからも、早速秋季BBQ大会を10月16日に行いました。この時期のバーベキュー大会は昨年度から新たに始めたイベントで、焼き芋を加えた季節の味を感じさせるものです。ちょうど来日したばかりの短期留学生達(シンガポール)の歓迎会にもなり、グループごとに親睦を深めました。

これからも、学寮行事には、消防避難訓練(11月)、クリスマスパーティー(12月)、5年生送別会(2月)などが予定されています。

感じているのではないかと思います。1年生は、入学して最初の定期試験に悪戦苦闘?しながらもなんとかこなし、日々に夏を感じて休みたいのを我慢しながら、オープンキャンパスの準備や、これに参加する中学生を相手の研究アピールに汗を流していました。これが終わると、一息入れる間もなくインターナショナルに出かけています。今年は、1年生全員が、企業や大学院でイン턴アーンシップに参加しています。学校の外の世界でモノづくりの現場を体験することによって、本人が将来希望する活躍の場を模索すると同時に、先輩技術者や研究者との専門的な仕事を通じたコミュニケーションにより、多くの貴重な学習をしてきていることが分かる報告がなされています。現在は、来年に迫った進路の決定に向かって、本格的に企業や進路先の調査に入っているところです。

2年生は、3月から就職活動がスタートして、現在9割の学生が進路を決めて内定式を済ませています。また、大学院進学の学生も、ほぼ合格といったところです。就活、入試から始まり、学位授与申請の準備、特別研究の追い込みとこの時期が最も忙しく、同時に学生にとっては充実した時期でもあるかと思います。これから、学位授与小論文

センター等行事より

「高専生によるパソコン教室」について

ICT活用学習支援センター 小松 一男



熊本キャンパスでは、ICT活用学習支援センターの活動として、毎年地域住民の方を主な対象とした講習会「高専生によるパソコン教室」を実施しています。この講習会はパソコン入門コース、文書作成初級コース、表計算初級コースの3コースがあり、高専生がボランティアで各コースの講師となり4日間、並行して行われているものです。主に専攻科生・5年生を中心とした3名の学生が講師役となり、受講生2人に一人の割合で講習会を補助するボランティアの学生も参加しております。これにより、受講生の方々からはきめ細やかなサポートで親しみ易いとよい評判を得ております。また講師の学生にとっては他人に教えることで自分の勉強にもなり、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上にもつながると考えております。我々教員はこの講習会のマネジメントや講師学生へのサポートなどを行つております。

昨年度は平成25年2月26日から3月1日までの4日間、18‥30か

ら20‥00の日程で行われました。3コースの内容は、「パソコン入門コース-Windowsの基本操作からmailの使い方まで」、「文書作成初級コース-Wordを用いた編集の基本から、案内状の作成などの実用的な使い方まで」、「表計算初級コース-Excelを用いた表計算の概念から関数等を用いた実用的な使い方まで」です。受講生は、地元の合志市を中心として、定員各コース20名に対し、パソコン入門コース13名、文書作成初級コース14名、表計算初級コース15名の合計42名にお集まりいただきました。講習会終了後のアンケート調査では、親切だった、丁寧だったといった内容が多く見られ、概ね良い評価が得られました。また、補助の学生に家庭教師として招きたいとの声もありました。講師役の学生や、サポートの補助学生も今回の経験を通して多くのことを学ぶことができたのではないかと思つております。今年度も平成26年2月末から4日間で行う予定です。



PBL・総合教育センター活動報告

PBL・総合教育副センター長 上土井 幸喜

PBL・総合教育センターのこれまでの主な活動を報告致します。「わいわい工作・実験ひろば」については、5月～7月まで毎月1回、のべ3回実施しました。参加人数も例年より多くこども160人、保護者115名の計275名の参加がありました。どの講座も保護者同伴での参加がほとんどで、一緒に楽しく作業に取り組まれていました。

また、小中学校の夏休みの最後8月の後半には、代陽児童クラブ、高田児童クラブ等4箇所での出前授業を行いました。今年度、連携理科授業は、小学校2校、中学校9校の予定です。松高小学校では5年生の合同授業「雲と台風の話」を行っています。また、八代第四中学校では「液体窒素の実験」を実施しています。



「第3回わいわい工作・実験ひろば～雪の結晶をつくろう!～

(土)には八代土曜市アーケード街の”たまりんば”というスペースを使い、熊本高専から出展した建築作品の見学やミニミニ科学館の出展物を体験してもらいました。また、補助の学生に家庭教師として招きたいとの声もありました。講師役の学生や、サポートの補助学生もおいて、第6回PBL利用教育に関する教員研修会(学生の主体的な学びを目指して)Aalborg大学のProblem & Project Based Learningに学ぶ」を実施しました。デンマークのオルボーユー大学からPBLによる工学教育の専門家であるアネット・コルモス教授を招いて、世界のPBLの歴史、オルボーユー大学設立の背景と「オルボーユーPBLモデル」について講演してもらいました。オルボーユー大学では、カリキュラム全体にPBL教育を取り入れており、学生の意欲を引き出すとともに、学力は伝統的な教育手法の他大学に比較しても、より身についており、退学率は低く、卒業までの就学年限も短くなっています。



「わいわい工作・実験フェスティバル2013」



「第6回PBL研修会～学生の主体的な学びを目指して～

います。また、産業界からも高い評価を得ているなどのオルボーユーPBL教育の良い面が強調されました。東京高専など外部参加も含め40名ほどの参加があり、参加者からは、沢山の質問も出され、日本におけるPBL教育導入について全員で真剣に考えました。

センター等行事より

地域イノベーションセンターの社会人講座2013

地域イノベーションセンター 田中 祐一

国際交流委員会活動報告
国際交流委員長 宇ノ木 寛文



図1 JR車内広告

地域イノベーションセンターでは、地域産業界や地域行政機関と積極的な連携により、①地域イノベーションの推進に関する活動②共同研究プロジェクト等研究・技術開発連携の企画・推進に関する活動③社会人講座等地域の人材育成の企画・推進に関する活動、④九州沖縄地区拠点活動を含む知的財産活動活性化等の企画・推進に関する活動を行っています。具体的な活動事例として「社会人講座2013」の紹介をしたいと思います。地域イノベーションセンターでは毎年各種の社会人講座を実施しています。JR九州の車内広告の案内です。図1(この図はJR九州の車内広告が含まれる合計6講座を示す)に示す5講



図2 社会人講座の様子

していませんが、2013年度は図1(この図はJR九州の車内広告が含まれる合計6講座を示す)に示す5講座が開講され、盛況のうちに終了しました。図2は9月に開催され

た「3D-CADによる設計・試作講座」の講座(全4回)の風景です。この講座では熊本県内の複数の企業の技術者が参加され、第1、2回・3D-CAD(Solid Works)の使い方、第3回・3D-CAD上での構造解析の方法、第4回・3D-CADと3Dプリンターの連携および3Dプリンタを使っての実際の試作を実施しました。

講座参加者は、表札などのオブジェクト物から会社で検討している製品までいろいろな試作品を3Dプリンターを使って製作しました。受講者へのアンケートの結果では、本講座で学習した内容を会社での仕事に役立てたいなどの意見もあり、とても好評を頂いた講座の一つでした。今後も11月から来年1月にかけて3つの社会人講座が開催されますが、地域のたくさんの方にご参加頂ければと考えております。

熊本高専地域イノベーションセンターでは、今後も地域産業界や地域社会との連携を密にしていきながら、地域のイノベーションの推進に寄与していくことを目指してまいります。

た「3D-CADによる設計・試作講座」の講座(全4回)の風景です。この講座では熊本県内の複数の企業の技術者が参加され、第1、2回・3D-CAD(Solid Works)の使い方、第3回・3D-CAD上での構造解析の方法、第4回・3D-CADと3Dプリンターの連携および3Dプリンタを使っての実際の試作を実施しました。

講座参加者は、表札などのオブジェクト物から会社で検討している製品までいろいろな試作品を3Dプリンターを使って製作しました。受講者へのアンケートの結果では、本講座で学習した内容を会社での仕事に役立てたいなどの意見もあり、とても好評を頂いた講座の一つでした。今後も11月から来年1月にかけて3つの社会人講座が開催されますが、地域のたくさんの方にご参加頂ければと考えております。

そうした中で、新しい国際交流のありようとして短期留学生が近年増加していることについて熊本キャンパスの事例が嶋田委員長(当時)から紹介されました。八代キャンパスでも同様に受け入れを積極的に進めている。本校は中国の北京航空航天大学北海学院と二〇一二年に「友好協力に関する協定」を締結しており、今年度は同学院の二名の学生が、六ヶ月の予定で十月から授業の聽講や課題研究に励んでいます。またシンガポールポリテクとも交流があり、今年度も三月に三名が来校し、課題に取り組む予定である。高専機構が六か国の高等教育機関と包括交流協定を結んでいることもあり、こうした交流の機会は確実に広がる傾向にある。日本人学生にとっては日本に居ながらにして国際交流を経験できる環境が整いつつある状況である。

学生が海外に出る機会も増大している。機械知能システム工学科の研修旅行では、今年度はシンガポールと台湾で工場見学や現地学生との交流が



シンガポールポリテク学生の成果発表の模様

後援会より

熊本キャンパス後援会活動と学生の活躍の喜び

熊本キャンパス 奨学後援会副会長 佐藤 美千代

日頃より後援会活動及び行事等にご理解、ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

今年度の後援会活動をご紹介いたします。

四月に定期総会、七月には、八代キャンバス後援会役員の皆様及び双方の先生方との交流会を行い、両キャンパスの援助内容と卒業パーティーについて意見交換をいたしました。

又、熊本キャンパス初めての試みで、八月の夏季オープンキャンパスに来られた、中學生の保護者の方からの相談コーナー(高専保護者の部屋)を設けました。第一回目という事で、相談者は少なかつたのですが、保護者の方の悩みを少しは和らげられたのではないかと思います。

十一月には、八代キャンパスの高専祭を見学させていただきました。熊本キャンバスとは違って、後援会も参加されている為、役員同士の繋がりが一段と出来ているように感じました。

他にも、役員会三回と三役と先生方とのワーキングを二回行いました。

今後の主な活動として、十二月七日の冬季オープンキャンパスでの相談コーナー、三役と先



八代キャンパス 後援会副会長 小西 涼司

員、保護者、職員、総勢38名が参加を

生方とのワーキング、年明けには八代キャンバス後援会の役員の皆様との交流会、二月に役員会、三月十六日の卒業・修了記念パーティーなどの開催を予定しております。

学生の活躍では、十月六日に八代総合体育館で高専ロボコン九州沖縄地区大会が開催され、熊本キャンパスAチームの「カメンジヤンパー」が優勝して、全国大会へ。

全国大会は、十一月二十四日に東京両国国技館で行われ、兩大会共、多くの先生方、保護者が観戦しました。

地区大会の会場と雰囲気も違いましたし、一回戦の第一試合ということもあり、学生たちの緊張が私達観戦している側にも伝わりハラハラドキドキ手に汗握って声援を送りました。

学生たちが四月頃から製作しはじめ頑張って仕上げたロボットが二回戦三回戦と勝ち上がり行くのを見てとても感動しました。

他にも多くの学生の活躍を目にしたり耳にしたりすると、嬉しい限りです。

これからも役員一同、保護者の皆様のご協力の下、頑張って行きたいと思います。

10月の工場見学研修は、後援会役

早いもので今年も12月を迎えましたが、4月の定期総会に於いてご承認頂いた、25年度の後援会行事も、会員

の皆様のご理解とご協力により計画どおり挙行しています。

6月には学生会の定例会を参観した後、活動内容等について学生との意見交換を行いました。

7月には、熊本市内にて、熊本キャンパス奨学後援会との懇談会を行い、平成26年度以降の卒業祝賀会について、学生の各種大会出場への援助基準の統一について、役員の人数等についての協議を行い、今後、両キャンパスで摺合せを行っていくことを確認しました。熊本、八代、両キャンパスの後援会が統一感をもって活動することにより、さらにより良い方向に展開していくことを期待しています。

11月2日、3日の高専祭では、後援会のブースを設け、パネル展示、喫茶コーナー、スープーボールすくい、無料わたがし、フリマを行い、今年も約3万3千円を学生会へ寄付することができました。

来年度からは役員の数が各クラス2名以上となる予定ですので、皆様、ぜひ参加をしてみませんか。

また、11日のオープンキャンパスでは、「何でも相談・談話コーナー」としてオープンキャンパスに来て頂いた中学生の保護者からの相談を受けました。寮、教務、学生コーナーを設け、相談の内容に合わせた対応ができて、充実した相談コーナーとなりました。



「合志市エコまつり」に出展しました。(9/28)

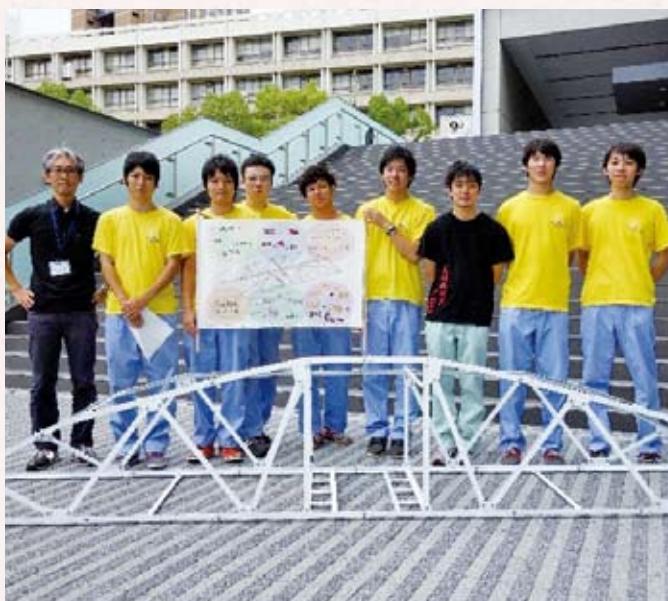
9月28日に「合志市エコまつり」が、合志市総合センター「ヴィーブル」メインアリーナで開催され、本校より「くまもとの湧水」のパネル展示と、「ロボットによるごみ分別ゲーム」を出展しました。

「くまもとの湧水」パネル展示では、くまもとの湧水に関する本校教員による「熊本湧泉研究会」の活動を紹介し、実際の湧水で利き水を行いました。また、「ロボットによるごみ分別ゲーム」では、燃えるごみや資源ごみを分別してロボットで運ぶゲームを競技形式で実施し、多くの子供たちがゲームを楽しみながらごみの分別に興味を示していました。



Japan Steel Bridge Competition 2013で大健闘しました。(9/1)

8/31～9/1に名城大学で開催された「Japan Steel Bridge Competition 2013」に土木建築工学科5年生の代表8名(リーダー溝上晴也君、チーム名:C)が出場しました。大会には京都大学や東京工業大学など全国17大学に加え、高専2校(長岡、熊本)が初参加しました。競技部門は、河川を渡る現場を想定して鉄製の部材で製作した4mの橋梁模型を用いて架設競技、美観競技、載荷競技の3部門で競います。熊本高専の橋は『彩橋(さいきょう)』と名付けられ各競技で健闘しました。中でも載荷競技では、基準たわみ6.6mmに対して、実測たわみが6mmという好成績を収めました。その結果、構造部門では優勝、各競技を総合した総合部門では準優勝となりました。大学4年生、大学院生が多数を占める中、高専5年生だけのチームで大会を大いに盛り上げていました。



第3回「科学の甲子園」全国大会熊本県出場校選考会で準優勝しました。

(11/2)

11月2日に熊本大学において実施された第3回「科学の甲子園」全国大会熊本県出場校選考会に、熊本キャンパス2年生の上野裕一郎君、古川満理奈さん、渡邊大樹君、上野拓武君、工藤寛樹君、田尻裕喜君が出場しました。

選考会は、筆記試験(理科、数学、情報の分野の中から、知識を問う問題及び知識の活用について問う問題12題をチーム全員で協力しながら解答し、得点を競う)と実技試験(理科、数学、情報に関わる実験、実習、考察等、及び科学技術を総合的に活用して、ものづくりの能力、コミュニケーション能力等により課題解決する力を競う)で競技が行われました。優勝校は3月末に実施される全国大会に熊本県代表として出場できるということあり、メンバー全員で協力し、競技に挑みましたが、昨年度に引き続き、惜しくも準優勝となりました。今回出場した学生たちの今後の活躍にも期待しています。



熊本高専公式HPではNews & Topicsの記事を募集しています。

Newsでは、部活動の対外活動や学内の学生行事、学生・教員の取り組みなどを紹介します。また特に郊外での活躍はTopicsとして公式HPのトップページにも掲載されます。

公式HPで紹介したい内容がありましたら、ぜひ情報を寄せください。学生・保護者の方は、部活動の内容は顧問教員、各クラスの行事・個人での取り組みなどは担任を通じてお寄せください。

News「在学生・保護者の方へ」内でもご覧いただけます。

**News
&
Topics**

募集しています!

News&Topics

女子学生のためのメイク講習会を開催しました。(7/17)

7月17日、熊本ベルエベル美容専門学校メイク科主任・小堀真理先生を本校熊本キャンパスにお迎えし、4年生の女子学生を対象としたメイク講習会「好印象をもたらす就活メイク・マナー!」を開催しました。インターんシップを一ヶ月後に控え、今後進路を考える機会が多くなります。好印象をもたらすメイクアップとマナーを、実践を交えながらわかりやすく解説していただきました。学生たちは、メイクが「清潔感」「知性」「意欲」を引き立てることを知り、とても関心を持って好感度アップに取り組んでいました。



九州沖縄地区高専英語弁論大会で3年生柳森さんが優勝、重信君が審査員特別賞を受賞しました。(8/23)

8月23日に第46回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会が北九州高専にて開催されました。八代キャンパスからは、生物化学システム工学科3年の柳森虹保さん(英語研究部所属)がスピーチ部門に出場し、見事優勝しました。また、熊本キャンパスからは、制御情報システム工学科3年の重信亮太君がスピーチ部門に出場し、見事審査員特別賞を受賞しました。柳森さんは「A Dream Given to Me(私に与えられた夢)」というタイトルで、日頃の練習の成果を存分に発揮し、高専入学のきっかけとなった人物について、また自分の夢について感動的なスピーチを行いました。重信君は「A Happiness for Companion Animals(伴侶動物にとっての幸せとは)」という題目で自身の経験談を織り交ぜながら、力強いスピーチを行いました。

柳森さんは、来年1月に開催予定の全国大会にも出場予定です。



「SuperCon2013」に出場し健闘しました。(8/19~23)

8月19日から8月23日に東京工業大学と大阪大学で開催された2013年度スーパーコンピューティングコンテスト本選(通称SuperCon2013)に、本校から機械知能システム工学科3年池田裕季君、建築社会デザイン工学科3年閔原至音君、機械知能システム工学科2年渡邊兼誠君の3名が出場しました。両会場をネットワークで結んで実施されたコンテスト本選には、各会場10チームずつ、合計20チームが参加。本選問題は、ビッグバン直後の宇宙の初期状態の候補を選び出すのに必要な膨大な計算を、東京工業大学のTSUBAME2.0というスーパーコンピュータを駆使して出来るだけ高速に解くというものです。結果、熊本高専八代キャンパスチームは6位と健闘しました。



八代市「本町土曜市」に参加しました。(7/20,27)



八代市本町土曜市に参加しました。アーケード街に設けた「たまりんば」という自由スペースに熊本高専店を開店し、建築設計作品、建築模型、カラフルな「立体万華鏡」、振り子の周期の違いを利用した「振り子のダンス」、人工的に波を再現する「ビッグ・ウェーブ」、ラケットのガットの感触を利用した不思議な「お肌つるつるラケット」を展示・体験してもらいました。参加者の方々は、立体万華鏡の作成方法について質問したり、お肌つるつるラケットの不思議な感覚に驚いていました。

行事予定

Event Calendar

1月 ▶ 3月

熊本キャンパス

1 January
月

6(月)	授業開始
18(土)	本科推薦選抜(入学試験)
22(水)～28(火)	定期試験(専攻科)
28(火)～2/3(月)	定期試験(本科5年)

2 February
月

6(木)	特別研究発表会(専攻科)
7(金)～14(金)	定期試験(4年以下)
16(日)	本科学力選抜(入学試験)
17(月)・18(火)	休講(本科)
19(水)	卒業研究発表会
27(木)・28(金)	休講(本科)

3 March
月

3(月)・4(火)	クラスマッチ
5(水)	終業式
6(木)	学年末休業(3月31日まで)
16(日)	卒業式・修了式



八代キャンパス

1 January
月

6(月)	授業開始
18(土)	本科推薦選抜(入学試験)
22(水)～28(火)	定期試験(専攻科)
28(火)～2/3(月)	定期試験(本科5年)

2 February
月

4(火)～10(月)	定期試験(4年以下)
7(金)	特別研究発表会(専攻科)
16(日)	本科学力選抜(入学試験)
17(月)	休講(本科)
21(金)～27(木)	課題研究発表会(本科)

3 March
月

4(火)	終業式
5(水)	学年末休業(3月31日まで)
14(金)	卒業式・修了式



編集後記

本号では、九州沖縄地区大会で2連覇のロボコンをはじめとする高専における特徴的な学生達の活躍ぶりを紹介しました。また、新たな高専教育への取り組みや各委員会、センター等の活動も紹介しています。学生と教職員が共により良い熊本高専を創り育てている思いを少しでも感じていただけたら幸いです。記事の執筆や編集作業にご尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



革新する技術、創造する未来 ~夢へ翔る熊本高専~

熊本高等専門学校

独立行政法人 国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校

熊本キャンパス

〒861-1102 熊本県合志市須屋 2659-2 TEL 096-242-2121

八代キャンパス

〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627 TEL 0965-53-1211

<http://www.kumamoto-nct.ac.jp/>